

平成26年度の受章者

春の叙勲

瑞宝中綬章

伊東 政敏 (昭 36 年卒)
元国立療養所岐阜病院長

武部 啓 (教室会員 放射能基礎医学)
京都大学名誉教授

山本 尚三 (教室会員 医化学)
徳島大学名誉教授

藍綬褒章

廣瀬 邦彦 (昭 43 年卒)
元大津赤十字病院長

〔開催日時〕
2015 年 4 月 11 日
(土) 午後 6 時 30 分
(会場)
ホテルグランヴィア京
都 3 階 (定員 1000 人)
〔司会者〕
ロザン(宇治原史規(京
大法学部卒)、菅広文)
〔総会の概要〕
第 29 回日本医学会総会
2015 関西 井村裕夫
会頭および本庶佐副会
頭あいさつ(予定)

より一層の参加を 来年 4 月 11 日に 芝蘭会臨時総会



京都大学基礎医学記念講堂・医学部資料館



第182号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 新任教授あいさつ
- ③ 校友会・KMS・FUND だよ
- ④ 世界医学サミット京都2015
- ⑤ 医学部新入生セミナー
- ⑥ 芝蘭会総会・評議員会・理事会
- 支部だより 東京・大阪・岐阜
- 支部だより 阪神
- 人事異動・会員訃報

分野横断的な議論期待

—— 第 29 回日本医学会総会 2015 関西 開催にあたって ——

井村裕夫会頭に聞く



議論すべきは、 今です

前回の第 28 回総会
は東日本大震災の影響を
大きく受けましたが、
そうすね。全国の前
生方や医療に携わる方々

総会には個々の分科会では
なしえない、分野を横
断する議論ができる貴重
な機会です。そこで、先
に述べたような社会の要
請から 20 の課題をあらか
じめ抽出して、そのテー
マごとに議論をしていた

「20 の柱」を議論
—— そうした環境の
下、今回の総会での議論
はどのようなものになる
でしょうか。

「20 の柱」を議論
—— そうした環境の
下、今回の総会での議論
はどのようなものになる
でしょうか。

しかし、その間に日本
社会は大きく転換を迫
られてきました。団塊
の世代が今年 65 歳の坂
を越え、いよいよ超高
齢化社会が到来します。
それによって、これま
での健康保険制度や年
金制度などの社会スキ
ームが大きく変革を迫
られます。すると医療、
介護の現場は真っ先に
この影響を受けます。で
すから、いま私たちも真
剣に議論しないと、高
齢化社会の大波に対処で
きません。医学・医療も
変わる、これからの健康
社会をみんなで作って
いく、その今しか許され
ない議論にぜひ大勢の
方々に参加していただ
きたいと思います。

現役学生による研究発表
各サークルからの活動
報告
祇園芸妓の「手打ち」(お
めでたい席で披露され
る格調高い伝統芸)

第29回 日本医学会総会 2015 関西 2015 年春 開催

芝蘭会会員の皆様のご参加を心より
お待ちしております。

事前参加登録受付中！ <http://isoukai2015.jp/>
早期登録特典 (2014 年 10 月 31 日まで)

- 1 分科会応援早割
- 2 プレミアムツアー
- 3 プレミアムコングレスバッグ

事前登録デスク

TEL : 03-6736-4369 FAX : 03-5963-3277
平日 : 10:00 ~ 17:00
E-mail : regi-desk@isoukai2015.jp

【概 要】

メインテーマ

医学と医療の革新を目指して
——健康社会を共に生きるきずなの構築——

会頭

井村 裕夫 (京都大学名誉教授、元京都大学総長)

会期・会場

1) 学術講演

4 月 11 日 (土) ~ 4 月 13 日 (月)
国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、
京都大学百周年時計台記念館、京都大学医学部芝蘭
会館

2) 学術展示

4 月 10 日 (金) ~ 4 月 13 日 (月)
国立京都国際会館、京都市勧業館「みやこめっせ」

3) 一般公開展示

3 月 28 日 (土) ~ 4 月 5 日 (日)
神戸国際展示場ほか

4) 医学史展

2 月 11 日 (水・祝) ~ 4 月 12 日 (日)
京都大学総合博物館



5) 医総会 WEEK

4 月 4 日 (土) ~ 4 月 12 日 (日)
京都劇場ほか

【学術講演「20 の柱」】

メインテーマに沿って、今日の社会が直面する 20
の課題について分野横断的な議論が行われます。詳細
については、ホームページ (<http://isoukai2015.jp/>)
の学術講演の欄をご覧ください。各柱の聴きどころ、
見どころを掲載しています。

医 学

- 1) トランスレーション科学の振興
- 2) 臨床研究の推進
- 3) 先制医療 (個の視点からの予防医学)
- 4) 再生医療
- 5) リハビリテーションのこれから
- 6) 環境変化と健康
- 7) サイエンスからみた心の問題・心の発達
- 8) 基礎医学からの提案

医 療

- 9) 日本の医療・介護制度を考える
- 10) 医療技術の評価 (ヘルステクノロジーアセスメント) と医療資源の配分
- 11) 医療と IT (情報技術)
- 12) 周産期・小児医療の課題
- 13) 在宅医療を含んだ慢性期医療
- 14) グローバルヘルス

きずな

- 15) 効率的な医療人養成制度
- 16) 死生学 (終末医療、臓器移植、緩和医療)
- 17) 学生企画
- 18) 震災に学ぶ
- 19) チーム医療の新しい展開
- 20) 移行医療 (transitional medicine)

これらのセッションの他、約 40 の産業医向けセッ
ションを計画しています。職場での健康や、疾患発症後
のリハビリなどのトピックについて議論される予定で
す。

大きくことにしました。そ
の横串の議題設定が第一
の特徴です。これら 20 の
課題を、今回のメインテ
ーマに示されているキー
ワードである、「医学」

「医療」「きずな」の三つ
のカテゴリーに分類し、
「20 の柱」と呼びます。
「20 の柱」には、例え
ば「先制医療」「在宅医療」
「死生学」など、地域の
健康を預かる先生方にも
身近な課題がたくさん盛
り込まれています。これ

先ほど掲げた社会的
課題は、私たち医療者
だけでは解決できませ
ん。異なる領域の専門
家、行政、企業、そし
て一般市民の方々の知

さらにメディアを通じ
て国民的なご理解をい
ただけるような広報活
動にも注力します。
しかし、なんといっ
ても日頃、医学・医療の最

開かれた医学会総
会で分野横断的な議論が
より多くの方によって活
発に行われ、今日の社会
が直面する課題解決に明
るい道筋がつけられるこ
とを期待しています。

「開かれた総会」を
実現するために
—— 第一の特徴は「分
野を越えた議論」では、
二つ目はなんでしょう
か。

恵が求められます。そ
のためには開かれた議
論の場が必要です。こ
れを実現する試みが第
二の特徴です。異分野
の方に参加していただ
くのはもちろん、市民
の皆さんに公開するセ
ッションも用意します。

前線におられる先生方、
スタッフの方々が議論の
中心を担っていただか
ねばなりません。それぞ
が「開かれた医学会総会」
を実現する第一歩だと考
えております。

世界で活躍する人材 育てたい

医学研究科教授

Shohab Youssefian



It is quite ironic that my recent move to the Graduate School of Medicine has brought me back to the medical field. Although I was initially accepted into medical school after my undergraduate degree, a three-month hitch-hiking trip throughout Africa, where I witnessed the tragic effects of hunger and its impact on health, compelled me to change my area and study plant genetics with the hope of helping to alleviate this suffering. After my MPhil and PhD at Cambridge, I moved to Akita where for the next 27 years my research focused on both basic and applied aspects of plant molecular biology, especially isolating and exploiting novel genes, such as those encoding various signaling molecules, transporters and enzymes, to improve crop responses to environmental stress.

My move to Kyoto now sees a shift in my focus. While I aim to actively continue my research – although now towards medical sciences – my priority at present is education, and I hope to share my passion and wonder about our biological world with many students. Of course, the challenge is to fully engage them in my biochemistry, genetics and molecular biotechnology courses in English, yet I am sure that they appreciate the importance of obtaining a global perspective on their education so they can become major protagonists in international scientific research and caring medical doctors with a broad vision of their domestic and global responsibilities.

Such an international outlook cannot, however, just come from attending a few English lectures alone. In my previous university, for example, we took large groups of students abroad for two-week periods to study and learn about different cultures and perform community service projects. This had a great impact on their lives and outlook. I hope to help initiate similar projects here – perhaps taking our medical students to work in a hospital in a developing country for several weeks. One of the international contributions of which I am particularly proud, is to be part of a global education initiative that provides on-line courses in numerous subjects to thousands of students in Iran who have been barred by the Islamic government from entering university only because of their religious beliefs. Many of our graduating students have subsequently entered high caliber universities, such as Harvard and Stanford Medical School.

When I was considering the possibility of moving to Kyoto, I was deeply struck by the Faculty of Medicine Admission Policy – “We consider it our mission to do our part for the well-being of the entire human race. The very foundation of all medical care is ‘love of mankind’” – and it was these words that convinced me that an environment with such a vision is where I would like to contribute to the education and nurturing of students so that they see their role as one of service. Indeed, a quotation by a 19th Century philosopher – “Regard man as a mine rich in gems of inestimable value. Education can, alone, cause it to reveal its treasures, and enable mankind to benefit therefrom” – gives us a clear indication that our role as educators is to bring out these hidden qualities of our students so that they can then serve humankind.

新任あいさつ

平成26年6月1日付で、医学研究科感染・免疫学講座 微生物感染症学分野の教授を拝命いたしましたので、芝蘭会会員の皆様にごあいさつ申し上げます。

私は、平成4年に大阪大学歯学部を卒業し、大阪大学大学院歯学研究科・口腔細菌学講座(浜田茂幸教授、現大阪大学微生物病研究所特任教授)のご指導の下、平成8年3月に歯学博士の学位を頂きました。歯学部

病原性細菌の進化の姿を描き出す

医学研究科感染・免疫学講座
微生物感染症学分野教授

中川 一路

されました。ちょうど日本でもさまざまな微生物ゲノムを解読しよう、というプロジェクトが立ち上がっており、その末端に加えていただいてA群

新しく設置された感染症国際研究センター(河岡義裕センター長)で独立する機会をいただきました。感染症国際研究センターでは、まったく無か



1所長)、既に着任されていた川口寧准教授(現東京大学医科学研究所教授)や俣野哲朗教授(現国立感染症研究所エイズ研究センター所長)のご尽力によりなんとか研究をスタートすることができました。さらに平成21年には東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・細菌感染制御学分野の教授に採用していただきました。

さて、今後ですが、私は二つのプロジェクトをきたことが、この菌種の

生存戦略を決定したとも言えます。これまでの研究結果から、A群レンサ球菌では、遺伝子のバリエーションは染色体内のプロファージ領域に決定され、そのファージは染色体の再構成に伴って病原遺伝子に変化しうることを防衛機構であるCRISPR/CasシステムはA群レンサ球菌においては、単にファージを排除するだけでなく、その菌に感染できるファージの種類を見分けるために使われることなどを明らかにしてきました。これらの結果は、A群レンサ球菌が将来どのような病原性遺伝子を獲得するのか予測できる可能性を秘めており、感染症の新規流行株の予測プログラムの開発や、Casシステムを応用した新規治療法の開発などにも結びつくことを示しており、「ゲ

ノム」という情報を応用した感染症の予防と制圧に向けた取り組みを行って行きたいと考えています。

もう一つのプロジェクトは、宿主反応、特にさまざまな病原性細菌と宿主との相互作用をイメージングの技術を用いて解析することで、細菌と宿主の攻防の真の姿を捕らえようとするものです。細菌感染は、宿主に重篤なダメージを与えているため、一方的に悪いイメージとして捕らえられがちですが、逆に言えば、さまざまな環境に適応できる細菌が、自身の生息の場として「ヒト」という環境を選んだだけとも言えます。細菌感染症ではワクチンだけで対応できる感染は極めて少なく、生体内での菌の動態は、ほとんど未解明のままであるというのが現状です。そのため、宿主と

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成26年6月30日(月)現在

・「三井住友銀行」利用のご寄附

307人(法人を含む)

56,160,000円

うち、50万円以上のご寄附は56人(法人を含む)

・「ゆうちょ銀行」利用のご寄附

248人

5,937,000円

うち、50万円以上のご寄附は2人

計555人(法人を含む)

62,097,000円

【ご注意】

最近、芝蘭会の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたつて個人情報(住所、電話番号等)を聞き出すという不審な問い合わせの電話があるというのを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意ください。また、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせいたしません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

芝蘭会事務局

TEL 075-751-2715
FAX 075-752-4015

平成26年度芝蘭会費の金額改定についてのお願い

会員各位におかれましては、日頃から芝蘭会の活動と運営に対してご支援とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

芝蘭会では、平成27年4月11日から3日間にわたって開催されます「第29回日本医学会総会2015関西」に呼応して、平成27年4月11日(土)に1000人の芝蘭会員が参集する臨時総会の開催を予定しています。この臨時総会を開催するにつきまして、多額の費用が必要でございますので、その費用を捻出するため、下記のとおり正会員の年会費を平成26年度に限り、5,000円から7,000円に改定することが、平成26年3月15日開催の臨時総会、評議員会、理事会において承認されました。

会員各位におかれましては、今回の会費値上げにご理解をいただくとともに、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

和やかに入学祝賀会

新入生、父母ら270人出席
校友会主宰



4月7日(月) 京都市
勤業館みやこめっせで挙
行された平成26年度京都
大学入学式の後、京都大
学医学部校友会主催入学
祝賀会が芝蘭会館山内ホ
ールで開催された。
医学研究科長湊長博教
授の祝辞の後、KMS・
FUND委員会委員、臨
床免疫学分野三森経世教
授よりKMS・FUND
と校友会の趣意説明が行
われた。
出席各教授からお祝いの
言葉をいただき、和やか
な祝賀会となった。出
席者は270名(教授
10名、新入生111名、
父母149名)。

校内見学会、楽しく 1回生の保護者 親睦を深める



IPS細胞研究所前での参加者ら

校友会では、親睦を目
的として1回生の保護者
を対象に校内見学会(キ
ャンパスツアー)を行っ
ています。今年は5月17
日(土)に実施、60余人
のご参加のもと、天候に
恵まれ、有意義な一日と
なりました。
初めに訪れたのは、昨

芝蘭会館での入学祝賀
会では、夢のような時間
をいただき心より感謝申
し上げます。医学部の先
生方のお話を拝聴し、彼
ら選んだのはトップレベ
ルの医学なのだと感じに
震えました。
その中でも思い出深い
のは、親として本当に
楽しい時間でした。医師
になるには、学力が必要
なのはもちろんですが、
人の痛みをわかる医師に
なりたいとあきらめず
体験を一緒にしました。

夢に向かつて

校友会会員 古庄 由紀

思えば初めての子育て
は、常に試行錯誤の連続
でした。しかし、18年間
を振り返ると「楽しかつ
た」という言葉以外見つ
かりません。
彼は5歳の時、医師に
なると決めました。ぶれ
ることなくその夢に向か
って努力を重ねていきま
した。
夢を持つ子どもを育て

に立った思いやりの気持
ちがうれしかったのです。
高校3年で京大に志望
校を変更した時は私も本
当に不安でした。勉強に
集中するあまりご飯も食
べられず痩せ細り、スト
レス性の湿疹が増えてい
きました。京大を目指す
のは過酷なのだと痛感し
ました。
だからこそ、入学式で
見た京大の桜は私の人生
で一番美しく艶やかだっ
たのでしよう。
京大の自由な校風の中
で、素晴らしい先生方と
仲間の中で、樹木がゆっ
くり大きくなるように、
経験を重ね、患者さんに
望まれる医師になって欲
しいと願っています。こ
れからの6年間で人生の
糧となりますように。

年新しく改築した木の香
りのする基礎医学記念講
堂・医学部資料館です。
医学部の「史」について、
小泉昭夫教授に講義を受
け、タイムカプセルに乗
り大学生になった気分
になりました。
続いて医学部棟、学生
会館などを見学し、芝蘭
会館山内ホールにて昼食
の京弁当をいただきました
が、ゆっくり休憩をとり、
話がはずみ親睦を深める
いい時間となりました。
距離があつて歩きは大
変なのですが、清風荘に
着き、庭園・茶室などを
観賞させていただきました
。管理事務所の岡本様
から丁寧な説明をしてい
ただきました。大学のキ
ャンパスであることに驚
くと同時に、京都大学の
素晴らしさに感動しまし
た。

とができました。よく
わからない中にも、ち
よつと理解できた気分
になりました。全員で
したいと思ひ、手づくり
(校友会会員・菅野ふみ)

急性心筋梗塞治療向上に努力

若手研究者優秀論文賞KMYIA受賞者の言葉

このたびは京都大学医学部若手
研究者優秀論文賞(KMYIA)
を受賞させていただきました、大変光栄
に存じております。京都大学医
学部関係者の方々、ご指導いた
だきました木村 剛教授ならびに関
係の諸先生方に厚く御礼申し上げ
ます。

循環器内科学分野博士課程 (医学専攻)

塩見 紘樹

今回受賞させていただいた論文
は、ST上昇型急性心筋梗塞に
対する経皮的カテーテルインター
ベンション治療(Primary PCI)に
おける発症から再灌流までの総虚
血時間の重要性を多施設観察研
究から示したものです。従来、S
T上昇型急性心筋梗塞に対する
Primary PCIにおいては、病院到
着から病変のバルーン拡張による再
灌流までの時間(Door-to-balloon
time)を90分以内とするのが治
療目標として診療ガイドラインで
推奨されてきました。しかしなが
ら、本研究の結果では、Door-to-
balloon time 90分以内の効果は
発症早期来院例に限られ、急性心
筋梗塞発症から病院到着までの時
間も加味した総虚血時間がより重
要であることが示されました。最
近になり、米国からもDoor-to-
balloon timeの短縮が今後の改善
に繋がらなかつたとの報告がされ
ており、今後はさらなる急性心筋梗
塞の予後改善のために病院到着前
の虚血時間も含めた総虚血時間の
短縮に向けた取り組みが必要とな
ってくるものと考えられます。本
賞を励みに微力ながら今後も急性
心筋梗塞治療の向上のために努力
していきたいと思います。末筆では
ございますが、関係者の方々に深く
感謝申し上げますとともに、さら
のご発展を心より祈念致します。

世界に羽ばたき活躍を

校友会会員・松本智成
新入生の皆さん、合格おめでとう



切な時もありますが、素
直になり、先輩・同僚そ
して親の意見を聞くのも
大切だっただと思います。
私は学生時代、サイト
カイン、特にIL-6の
シグナル伝達に関する仕
事を行い、細胞内シグナ
ル伝達のネガティブフィ
ードバック機構の概念
を提唱し(Nature 1997,
Proc Natl Acad Sci
USA 1998, 1998) 以
降サイトカインシグナル

伝達阻害による疾患治療
の開発に関する仕事に従
事させてもらいました。
当時はこんなものが役に
立つのかと思われていま
したが、ヒト型化抗IL-
6受容体抗体である
アクテムラを世に送り出
すことができ、現在では
生物学的製剤治療はキ
ャスルマン氏病(Biolo
id)、関節リウマチ、ク
ローン病のみならず種々
の疾患に使用されてお
ります。しかしながらそ
の生物学的製剤も感染
症、特に抗TNF製剤は
結核を発病させやすいと
いうことが判明し、その
対策が必要になってきま

した。どうにか結核に対
して生物学的製剤は感受
性のある結核薬の元で結
核菌をコントロールでき
る事(FEIN 2006)を示
し、初めは批判の嵐でし
たが米国、英国のガイド
ラインに認められ世に認
知されそうです。生物学
的製剤を育てて、そして
今後は感染症の問題につ
いて生物学的製剤を守っ
ていくことが今後の私の
ライフワークであると感
じています。

これらの生物学的製剤
の研究・開発において学
んだことは、医療面・研
究面において個々の能力
も大切だが組織力もも
つ

す。
これら生物学的製剤の
研究・開発において学
んだことは、医療面・研
究面において個々の能力
も大切だが組織力もも
つ

京都大学から世界に発信

来年4月13日・14日、京都で世界医学サミット

WHS Regional Meeting Asia, Kyoto 2015

主 催：京都大学

共 催：福島県立医科大学

会 期：2015年4月13日(月)、4月14日(火)

会 場：国立京都国際会館(一部日程はグランドプリンスホテル京都にて開催)

URL：http://www.worldhealthsummit.org/



WORLD
HEALTH
SUMMIT

基調講演：

特別講演：



Barry Bloom
Harvard School of
Public Health 教授



井村 裕夫
京都大学名誉教授



Ichiro Kawachi
Harvard School of
Public Health 教授



山海 嘉之
筑波大学大学院教授

世界初のサイボーグ型ロボットスーツ「HAL」を開発。超高齢社会におけるロボット技術の可能性について講演予定。



Michael J. Klag
Johns Hopkins Bloomberg
School of Public Health 大学院長



Peter Piot
London School of Hygiene
and Tropical Medicine 大学院長

2014年11月より参加登録受付開始

京大主催 各国の学者ら議論

2015年4月13日・14日、World Health Summit(WHS)のアジア地域会合が京都で開催されます(主催：京都大学)。

京都大学医学研究科(湊長博研究科長)は、WHSを企画・運営するM8 Alliance(注)の発足当時から日本代表として活動に参加して

り、このたび、第3回地域会合の主幹校として選ばれました。現在、社会健康医学系専攻を中心に、全学的に準備が進められています。

今回の地域会合では、「社会疫学」の生みの親として知られるイチロー・カワチ教授(ハーバード大学)などを基調講演



WHS2013の様子(ドイツ・ベルリン)

者として迎え、日本が世界のロールモデルとなり得るテーマとして、①超高齢社会への挑戦、②自然災害への対応と準備、③未来の人材育成、などを主要テーマにします。

さらに、医療の現場を支える医師、技術の発展を担う産業界や行政からも広く参加者を募り、健康医療に関するさまざまな問題について意見

交換を行うワークショップなどが企画されています。

「世界の英知が京都に結集し、未来の医療の在り方について検討するまと」とい機会です。ぜひ多くの芝蘭会会員の皆さまに足をお運びいただき、超高齢社会を迎えた日本そして世界の医療が新たなステージへと飛躍するために何が求められているのか、各国の参加者とともに議論を深め、世界へメッセージを発信する契機としていただきたいと思います。

(福原俊一・WHS地域会合会頭・京都大学医学研究科社会健康医学系専攻長)

2014年11月から参加登録受付開始。

【注】M8 Alliance)世界有数の医科大学で構成される国際的連合。世界17機関が加盟する(平成26年6月現在)。

移動できるような支援すること②今後6年間で追究する自分なりの「興味・関心」を見つける手掛かりを得ること③学年を超えたつながりをつくることを目的としています。

新しい取り組みではありますが、昨年度は参加者から好評をいただき、今年度は、昨年度の経験を踏まえてより充実したプログラムづくりを目指し、2カ月ほど前から学生・教員間で議論を重ねました。

午前中を中心とした教員によるセッションでは、まず医学教育推進センター長小西靖彦教授から「健康と医療問題についてアカデミアから政

策提言を行うことを目的とし、2009年から毎年ドイツで国際会議を開催。

打ち解けた雰囲気の新入生セミナー

プログラムを行いました。まず、京都大学医学部カリキュラムについて、学生の視点から説明があり、その後、新入生は4、5名の小グループ

に分かれ、学生スタッフは各グループ内で、医学士としての今までの「自分史」を新入生に話しました。打ち解けた雰囲気の中で、新入生は授業やアルバイト、研究室訪問、海外留学など多岐に渡る質問を次々と投げかけ、学生スタッフは自らの経験や苦労を踏まえて精一杯、語っていました。

会場は大いに盛り上がり、セッション終了の時刻になっても会話が途絶えることはありませんでした。最後には、学生スタッフの話を受けて、新入生が「6年間の目標とプラン」を作成し、それに学生スタッフがコメントを書き込み、お互いのプランニングを共有しました。

セミナー終了後に実施した新入生へのアンケートでは「ユニークな学生生活を歩んできた先輩の話を直接聞くことができた」「今まで曖昧だった将来について考えるいい機会になった」「海外での経験を積んでグローバルな人間になる必要性を感じた」などの声があり、今年度の新入生セミナーは盛況のうちに幕を閉じました。なお、本セミナーの開催にあたっては芝蘭会から経費面での助成をいただきました。ご協力を賜りましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(文責 高岡沙織 櫻田紘基 松梨聡史 伊藤秀一 佐々木潤)

熱心に質問、盛り上がる 14年度新入生セミナー

4月13日(日)に、入学生したばかりの医学学生を対象に「2014年度新入生セミナー」が芝蘭会館で、医学教育推進センターと医学教育を考える学生の会(KS・CoM)の共催により実施されました。本セミナーは、学生と教員とが協働して企画・運営するという新しい取り組みで、本年度で2年目となります。当日は、61名の新入生と学生スタッフ23名、教員3名が参加しました。

本セミナーは、①高校とはさまざまな点で異なる大学において、新入生ができる限りスムーズに交換を行うワークショップなどが企画されています。

事業報告など5議案承認

芝蘭会総会・評議員会および理事会

平成26年6月21日(土)、芝蘭会館別館において芝蘭会総会・評議員会および理事会が開催された。

議案(1)平成25年度事業報告および収支決算ならびに財産目録について(2)会長、副会長、常務理事、理事、監事、評議員の選任について(3)第3回芝蘭会代議員選挙の結果について(4)「第29回日本医学学会総会2015関西」開催に係る臨時総会の開催について(5)その他について、議案(1)について、医学教育活動等への助成や学生の海外研修等への助成について、活発な議論の上、原案どおり承認された。

議案(2)については、理事の湊長博氏、三嶋理晃氏、菊池晴彦氏、佐古伊康氏、相馬俊臣氏、二木隆氏、大高道也氏、隠岐尚吾氏、成宮周氏が本総会の日をもって任期満了となるため、同人を理事に再任、また、理事の小西淳二氏、延吉正清氏について、後任に野口正人氏、永田泉氏を理事として選任することが承認された。監事については、日合弘氏が本総会の日をもって任期満了となるため、同人を監事に再任することが承認された。評議員については、竹本勇氏、日野原重明氏、榑正幸氏、田中守氏、柴田史郎氏、隠岐尚吾氏、小西裕氏、藤原久義氏、木村徹氏、

杉山知行氏、矢野謙二氏、大城清氏、吉田修氏、廣瀬邦彦氏、邊見公雄氏の再任、また、福井支部の野口正人氏の後任に吉田治義氏、岐阜支部の山本剛史氏の後任に清水克時氏、岡山支部の高三秀成氏の後任に小笠原敬三氏、香川支部の笠木寛治氏、後任に寛善行氏、福岡・佐賀支部の延吉正清氏の後任に永田泉氏、前ウイリス研究所所長の松岡雅雄氏の後任に現ウイリス研究所所長の小柳義夫氏を評議員として選任することが承認された。

議案(5)については3件あり、1件目は、基礎医学記念講堂・医学部資料館基金の募金状況について報告が行われ、引き続き募金活動を行うことが承認された。2件目は、京都大学医学部教育研究支援基金の募金状況についての報告があり、了承された。3件目は、海外研修助成事業の選考状況について報告があり、了承された。



打ち解けた雰囲気の新入生セミナー

「連帯の医学」テーマに

大高先生が講演

【東京】平成25年度 芝蘭会東京支部総会ならびに第12回京都大学健康フォーラムが、平成26年1月25日(土)に千代田区の学士会館において催されました。

総会では、はじめに日野原重明先生のごあいさつがあり、5名の物故者に対して黙とうが捧げられました。幹事の二木隆・大高道也の両先生による平成25年度事業報告と平成26年度事業計画、六反田亮先生による平成25年度会計報告の後、芝蘭会本部代表(会長代理)の小西靖彦先生より本部および京都大学医学部の近況についてお話がありました。

第2部の京都大学健康フォーラムでは、聖路加国際病院院長の福井次矢先生と芝蘭会理事の大高道也先生が講演されました。その内容を紹介します。

まず、福井先生は「医療の質を測り改善する―聖路加国際病院の経験と国内外の動向―」と題して話されました。某大学での手術取り違え事故を契機として、世間の病院に対する目はより厳しいものになってきています。そうした中で聖路加国際病院では、QI (Quality Indicator) を用いてさまざまなデータを数値化することで適切な医療が行われているかどうかを調査し、その後の対策によって改善がみられるかどうかを冊子

記念写真に収まる東京支部総会の参加者ら



福祉・環境に問われる心と「かたち」という演目で講演が行われました。大高先生はこのたび、ご自分の半生を顧み「連帯の医学」と題した書籍を出版され、その内容を簡単にご紹介くださいました。大高先生は少年時代

C (国際がん研究機関)、規模も水準も世界最高峰に位置すると言われる米国のメイヨー・クリニックやMDアンダーソンがんセンターに行かれたりと、日本国内にとどまらない幅広い活動をされています。大高先生がお考えになった思想や理念の中で、私が印象に残ったのは、患者と医師との関係性についてです。湯川秀樹博士の「私が物理学をやるうと思つたのは、自分の生きている世界を認識すると同時に、その中を生き、それを認識しようとする自分を知ることでもあった」―「医師が病人に対する時、同時に自分自身をみていることでもあるのではないか」との言葉に啓発されたという点です。また、医師と患者、医療従事者相互、市民と専門家と行政相互の連携・連帯が大事であるとおっしゃっていました。

その後、記念撮影が行われ、場所を移して懇親会が催されました。今回の懇親会は大高先生の出

に入ったからには医者になる以外の進路はないかのように思っていました。大高先生のように高い志があれば、さまざまなことに挑戦する機会が作れるのだと感じ、大変勉強になりました。

膝関節痛の治療法を学ぶ



勢ぞろいした岐阜支部総会の参加者ら

【岐阜】

平成26年6月8日(日)、度芝蘭会岐阜支部総会が行われました。

研究科整形外科教授の松田秀一先生が、医学部の現状報告をされました。大学で現在進行中の医学研究や教育の各プロジェクトの紹介や、新病棟の建設計画や完成予定図の説明、そして記念講堂と医学部資料館の紹介などがありました。

現状報告の後には、同じく松田先生による特別講演が行われました。「膝関節痛のマネジメント」という題名の講演で、変形性膝関節症の薬物治療および外科的治療に

分子レベルの食科学を語る

【大阪】

平成26年6月7日(土)、ホテルグランビア大阪にて、芝蘭会大阪支部総会が開かれました。物故会

ました。以下が講演の内容です。

かつては長寿の県として知られていた沖縄県ですが、今では沖縄クライシスと呼ばれるまでの肥満県となつてしまつており、その現状を打開すべく今注目されているのが、分子レベルの食科学である、分子ガストロノミーだそう。そもそも肥満の原因として、主に脂肪の過剰摂取があげられますが、脂肪にはコ



盛り上がった大阪支部総会の参加者ら

いざそれを日々の食生活に取り入れるとなるとなかなか上手にいかないのが現実です。そこで分子ガストロノミーの観点により、levanin という物質に注目しました。これは短鎖脂肪酸に似ている物質で、玄米の中に含まれて

おり、小胞体ストレスをおさえる効果があるそうです。levanin を含有したPLGAナノ粒子化したサプリメントを開発すればいいのではな

開催されました。参加された先生方は20名ほどでしたが、先生同士とても盛り上がりつつおられる様子でした。私たち学生にもたくさん声をかけてくださり、よい経験となりました。そして宴もたけなわとなり、惜しまれながらも再開となりま

放射線治療の最前線に焦点



和やかな雰囲気の中、阪神支部総会に参加者ら

【阪神】平成26年7月5日（土）、ホテル「ポップイン」アミニングにて、平成26年度芝蘭会阪神支部総会・医療懇話会・情報交換会が行われました。

総会ではご逝去された先生方への黙とうが捧げられた後、例年通り会計報告、監査報告などが行われました。

引き続き行われた第10回阪神臨床医療懇話会では「近未来の医療情勢」「心臓細胞に対するマリーシャル静脈化学的アプレーション」「寛解不能で治療に難渋している神経芽腫stage4症例」「肺動静脈瘻に対するAmplatzer Vascular Plugを用いた栓塞術の一例」をそれぞれ村瀬徹哉先生（村瀬整形外科院長）、吉谷和泰先生（兵庫県立尼崎病院循環器内科）、窪田博仁先生（兵庫県立塚口病院小児科）、福富光先生（兵庫県立尼崎病院放射線科）にご講演いただき、財政事情と絡めた医療情勢の先行きや最新の手術法の紹介など、多くの貴重なお話を聴くことができました。また特別公演として、

されていきました。従来の技術では呼吸などの運動に合わせて動いてしまう病巣に放射線を集中的に照射することは困難でしたが、四次元放射線治療は病巣の継続的な動きにも対応しており、腹壁の動きを計算して病巣を追尾することが可能だそうです。これによって正常細胞へのダメージを減らし、がんにより集中的に放射線を照射できます。この技術が今後改良されていけば、一般に予後不良とされる脾臓がんに対する有効な治療法として期待できるという話には、本当に感動しました。

医療懇話会が終わり、会場を移して情報交換会が行われました。情報交換会は終始、和やかな雰囲気が進み、会の最中には多くの先生方がわれわれ雑誌部員にも気さくに声をかけて下さいました。在宅医療の今後の展望や産婦人科医の不足に対する懸念など非常に勉強になるお話も直接聞くことができて、良い経験になりました。そして、宴もたけなわとなり、会は惜しまれながらも解散となりました。

最後になりましたが、大先輩にあたる先生方とお話しすることのできるこのような貴重な会にお招きいただいたことに、この場を借りて御礼申し上げます。これで阪神支部総会、医療懇話会および情報交換会についての報告を終わらせていただきます。

また、最新の放射線技術として四次元放射線治療についても紹介

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	異動内容
H26.3.31	林 克彦	辞職 機能微細形態学准教授より九州大学教授へ
H26.3.31	向山 政志	辞職 腎臓内科准教授より熊本大学教授へ
H26.3.31	吉村 耕治	辞職 泌尿器科准教授より静岡県立総合病院医師へ
H26.3.31	渡邊健一郎	辞職 小児科講師より静岡県立こども病院診療科長へ
H26.3.31	岡本 晋弥	辞職 肝胆脾・移植外科講師より倉敷中央病院小児科医師へ
H26.3.31	人見 敏明	辞職 健康要因学環境衛生学特定講師より同特定研究員へ
H26.3.31	佐藤 恵子	辞職 子どもの健康と環境に関する全国調査京都ユニットセンター特定准教授より
H26.3.31	三上 芳喜	辞任 病理診断科准教授より熊本大学医学部附属病院病理部教授へ
H26.3.31	柿木 良介	辞任 リハビリテーション科准教授より近畿大学医学部整形外科教授へ
H26.4.1	Yossefian Shohabeddin	採用 医学教育推進センター特定教授より同教授へ
H26.4.1	神波 大己	昇任 泌尿器科講師より同准教授へ
H26.4.1	藤田 伴子	採用 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点（AK）特定研究員より同特定准教授へ
H26.4.1	田中佐智子	採用 京大病院臨床研究総合センター特定助教より健康解析学薬剤疫学特定講師へ
H26.4.1	富塚 太郎	採用 桜新町アーバンクリニック外務部長より健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定講師へ
H26.4.1	高橋めい子	採用 ゲノム医学センター助教より健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定講師へ
H26.4.1	恒藤 暁	採用 大阪大学寄附講座教員より集学的がん診療学講座特定教授へ
H26.4.1	奥野 恭史	採用 薬学研究科特定教授より臨床システム腫瘍学講座特定教授へ

発令年月日	氏 名	異動内容
H26.4.1	木下 秀之	採用 京大病院循環器内科医員より地域医療システム学講座特定准教授へ
H26.4.1	藤井 隆夫	昇任 リウマチ性疾患制御学講座特定准教授より同特定教授へ
H26.4.1	加藤 源太	採用 厚生労働省保健局医療課長補佐より診療報酬センター准教授へ
H26.4.1	桜井 孝規	採用 大阪府済生会野江病院病理診断科部長より病理診断科准教授へ
H26.4.1	平松 英文	昇任 小児科助教より同講師へ
H26.4.1	松井 喜之	昇任 泌尿器科助教より同講師へ
H26.4.16	池口 良輔	昇任 整形外科助教よりリハビリテーション科准教授へ
H26.4.30	古屋敷智之	辞任 メディカルイノベーションセンター特定准教授より神戸大学教授へ
H26.5.1	波多野悦朗	昇任 肝胆脾・移植外科講師より同准教授へ
H26.5.1	山城 健児	昇任 眼科学助教より同講師へ
H26.6.1	中川 一路	採用 東京医科歯科大学教授より微生物感染症学教授へ
H26.6.1	大村浩一郎	昇任 臨床免疫学講師より同准教授へ
H26.6.1	松原 雄	昇任 腎臓内科学助教より同講師へ
H26.6.30	豊田健太郎	辞任 臨床総合研究センター講師より豊田医院へ
H26.7.1	渡邊 直樹	採用 東北大学教授より神経・細胞薬理学教授へ
H26.7.1	丸山 史人	採用 東京医科歯科大学准教授より微生物感染症学准教授へ
H26.7.1	新田 隆士	採用 藤田保健衛生大学講師より肝胆脾・移植外科講師へ

会 員 計 報

（敬称略）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

柴田 清人 昭和14年卒	平成26年2月4日 ご逝去	帯刀 弘之 昭和24年卒	平成25年2月22日 ご逝去	下野 英世 昭和37年卒	平成26年1月5日 ご逝去
杉山 大助 昭和16年12月卒	平成26年4月17日 ご逝去	恒川 謙吾 昭和24年卒	平成26年6月10日 ご逝去	武田 貞夫 昭和40年卒	平成25年8月19日 ご逝去
矢部 善一 昭和18年専卒	平成26年1月2日 ご逝去	秦 禎三 昭和24年専卒	平成25年1月 ご逝去	板倉 宏次 昭和45年卒	平成26年6月15日 ご逝去
田中 輝美 昭和19年卒	平成26年6月1日 ご逝去	岡 正夫 昭和25年専卒	平成26年1月1日 ご逝去	樋口 光宏 昭和47年卒	平成26年7月8日 ご逝去
大井 豊 昭和21年卒	平成25年8月24日 ご逝去	武内 敦郎 昭和26年卒	平成25年9月12日 ご逝去	松下 利雄 昭和47年卒	平成26年4月16日 ご逝去
橋本仙一郎 昭和21年卒	平成26年2月 ご逝去	長崎 壽志 昭和28年卒	平成26年6月29日 ご逝去	松本 雅彦 昭和51年卒	平成26年2月27日 ご逝去
牧野 耕治 昭和23年卒	平成26年4月27日 ご逝去	藤井 正博 昭和31年卒	平成25年11月17日 ご逝去	神奈木一穂 教室会員 生理学1	ご逝去
絹笠 晃 昭和23年専卒	平成25年7月13日 ご逝去	桑名 兼光 昭和35年卒	平成26年4月7日 ご逝去	藤本 政子 教室会員 微生物学	平成25年11月7日 ご逝去

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。（FAX 075-752-4015）

芝蘭会事務局
事務局長 山田 均
総務課長 秋山和美
管理課長 浜崎康博

芝蘭会報編集委員会
委員長 高折晃史
委員 斎藤信雄、岩田征良、豊國伸哉、山田圭介、園部 誠、阿部 恵
顧問 高折晃史
部 員 畑野翔太郎（6回生）
鶴田将史、真辺 諄、森山太陽（以上5回生）
赤埴未宝、大植啓史、小杉大輔、坂本 慧、宮崎規晶（以上4回生）
高屋龍生、西川裕太（以上3回生）
梅本大地、菅原聡真、朴剛史、蔡 嗣鎬（以上2回生）